

低侵襲心臓手術外来を開設

MICSで傷跡目立たず

北海道大野記念

西区の北海道大野記念 MICS 外来」を開設
病院（齋藤孝次理事長、
入江伸介院長、276床）冠動脈バイパス手術や3
は、「低侵襲心臓手術（D内視鏡を用いた弁膜症



手術室スタッフ全員がモニターを通して術野の状況を共有

手術などで患者の負担を軽減し、早期社会復帰につなげていく。
同病院は、「がん」「脳卒中」「心臓病」の3大疾病と運動器疾患を中心とした高度急性期の病院として最新の診断機器と治療設備を整備。心臓疾患に対しては、循環器

冠動脈バイパス手術（狭
同外来の対象疾患は、
多職種による医療チームを結成し、専門外来を立ち上げた。

内科、心臓血管外科がそれぞれ専門性を生かした最新治療を提供している。

5月に心臓血管外科医

長として渡邊隼医師が赴任したのをきっかけに、

低侵襲手術を本格化。より多くの患者、医療者に知ってもらいたいと、渡邊院長を含め、心臓血管外科指導医3人のほか、

同病院で行う低侵襲心臓手術（MICS）は、肋骨と肋骨の間を切開してアプローチする手術方法で、切開口は3、

10 cm程度のため傷跡が目立たない。

骨を切開しないので、術後の感染症である縦隔炎を予防でき、出血量が

少ないことから輸血量も少なくて済む。患者の負担は小さく、入院期間は2週間だったのが1週間程度に短縮、早期社会復帰が可能。退院した週に登山を行った患者もいるという。

弁膜症に対しては、鏡視下手術を実施。2D内視鏡に替わって、3D内視鏡を使用している。従来と比べて、術野を3次元的に把握することができ、手術の正確性、安

心症、心筋梗塞）、心臓弁膜症手術（大動脈弁、僧帽弁、三尖弁）、不整脈 MAZE手術（心房細動）、左心耳切除術。

従来の冠動脈バイパス手術は、開胸による胸骨正中切開で切開口は20 cmと大きく、胸骨を切開するため患者の負担が大きいため、回復まで時間がかかる。

一方、同病院で行う低侵襲心臓手術（MICS）は、肋骨と肋骨の間を切開してアプローチする手術方法で、切開口は3、

10 cm程度のため傷跡が目立たない。

骨を切開しないので、術後の感染症である縦隔炎を予防でき、出血量が少ないことから輸血量も少なくて済む。患者の負担は小さく、入院期間は2週間だったのが1週間程度に短縮、早期社会復帰が可能。退院した週に登山を行った患者もいるという。

弁膜症に対しては、鏡視下手術を実施。2D内視鏡に替わって、3D内視鏡を使用している。従来と比べて、術野を3次元的に把握することができ、手術の正確性、安

全性が2Dと比べて優れにも活用していく考え。鏡視下手術は、手術室スタッフ全員がモニターを通して術野の状況を見ることができ、医師や看護師、コメディカルスタッフへの教育効果も高く、スタッフの育成は話す。

手術の正確性、安